

平成26年度第7回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：『岡山かき』のさらなる飛躍のために！」
- 2 日 時：平成26年11月25日（火）14：40～16：00
- 3 場 所：日生町漁業協同組合頭島支所
- 4 参加者：カキの養殖やカキを使った地域の振興に関わる方々 9名
- 5 知事挨拶

頭島地区カキ加工処理施設の完成というこの機会に、岡山県が全国第2位の生産量を誇るカキの養殖を中心とした漁業振興、海を活用した地域振興について、皆さんから意見を伺いたい。

6 発言内容

- ・ 今年度は、広島での天然採苗が不調であった。岡山県のカキ養殖は広島産種苗に一部頼っており、ある程度は地元で種苗を確保したが、来年度以降、生産規模の縮小化を懸念している。広島での不調原因について調査研究に取り組んでほしい。
- ・ CAS冷凍カキの販売は、今後高額な機器整備費などの課題が解決され、また、付加価値の向上が期待できるのであれば、将来の販売戦略の選択肢の1つになり得ると考えている。
- ・ 我々は先人の教えに従い漁場管理に重きを置いており、海ゴミの持ち帰りやアマモ場造成活動などに取り組み、限られた海域を守りながらカキ養殖を行っている。複数年で育成するカキは、死骸や糞で漁場環境を悪化させるため、日生には漁場に負担をかけない一年ガキしかない。
- ・ 過剰な養殖は漁場環境を悪化させ、後の世代に悪影響を与える。
- ・ 今後は増産ではなく、単価の向上を目指していく必要があると考える。我々が取り組むアマモ場造成活動などは地域のブランド力の向上につながると信じており、備前市全体で連携し、「里山・里海ブランド」として付加価値をつけて、カキの販売促進を図っていきたいと考えている。
- ・ 二、三年ガキは身が大きいと、大きさを比べられると勝てない。しかし、二、三年ガキは渋みが増すため、味は一年ガキが勝っていると考えている。「岡山のカキはうまい」と言って県外から毎年注文してくれる方も多い。
- ・ 約30年間アマモ場造成活動を継続してきた。平成20年頃からようやく成果が見え始めた。アマモ場の回復に伴いカキのへい死が減少していると実感しており、今後も活動を実施していくべきと考えている。
- ・ 漁業不振が続く中、27年度からカキ殻を利用した海底の底質改良の事業化を県が進めている。循環型社会を形成するために、カキ殻の有効利用は非常に有意義なことと考えており、将来、日生の海で魚が増えることを期待している。
- ・ 鹿久居島地先に完成した海洋牧場について、島内にある「古代体験の郷まほろば」とともに子どもたちが海とふれ合う場にしたいと考えている。
- ・ 来年4月に備前♡日生大橋が完成し、頭島への観光客も増加すると考えており、観光底びき網を軸に観光客、修学旅行生の誘致に力を入れていきたいと考えている。
- ・ 備前♡日生大橋完成に伴い、住民の足である定期船が減便されるのではないかと

不安もある。このため、大多府島の過疎化が進行することを住民は心配している。

- ・ 町おこしの一環として、カキオコでB 1 グランプリに参加した。カキオコをきっかけに多くの方に日生を訪れていただき、カキオコ以外の魅力にも気づいていただきたいと考えている。

7 知事のまとめ

- ・ 自然環境に配慮しながら生産活動を行うことは当然のことのようだが、多くの場合その当然のことができていない。漁場管理やアマモ場造成という皆さんの取組は非常に素晴らしい。
- ・ 一般的には生産量が多く知名度の高い広島産が、品質や味も勝っているというイメージになっているように感じる。それは非常に残念なことであり、もっと岡山かきの特長を知ってもらうことが大切だ。一つの方法として、食べ比べなども効果的ではないかと考える。皆さんの頑張りに相応しい値段で買っていただけるようにすることが大切だと考える。
- ・ 皆さんに頑張っていて、岡山のカキの評判をさらにあげていただきたいと思う。
- ・ 地元の人にとって何気ないものが観光客を惹きつける魅力となることがある。まずは、今来てくれている人が何を評価しているのかを把握することが大切だと思う。